

# Rich ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第166号

## ななえ古写真物語 VOL. 166

### 秋の風物詩

りんごの収穫

昭和45年頃

鳴川地区か



nanae historical  
museum collection

日が暮れるのが早くなるこの時期、七飯町のりんご畑では赤や黄色の実が鮮やかに色づく。そのため町を車で走っていると、ほかの季節よりもリンゴ畑が所々にあることに気づきやすい。

七飯町は、斜面に市街地が形成されているが、中心部を流れる鳴川をはじめ、横津連山を水源とするいくつかの河川によってつくられた扇状地形である。要は、果樹栽培に適した土地といえるのだ。七飯町に西洋りんごをはじめて植えたドイツ人のR・ガルトネルという人物が、地形まで考慮したかはわからないが、以降、りんごは七飯町の特産品のひとつとして、今も栽培され続けている。

いまひとつ、りんごの町としての知名度が低いのは、収穫量が少ないということが要因なのかもしれないが、畑作として有効活用できる土地のほとんどが、傾斜面の扇状地であることから、広大なりんご畑を得ることが出来なかったもので仕方ないのかもしれない。

一方で、りんご王国ともいえる青森県では、平野部にりんご畑が設けられ、岩木山を遠くに望むりんご畑のロケーションなどを写真でみると、スケールの違いを感じてしまう。

以前にも、述べたかもしれないが、青森りんごの発祥といわれる弘前市にりんご栽培を普及した菊地楯衛と言う人物は、明治はじめに七重官園で高接ぎや枝の剪定方法を学んだ。なのでルーツは七飯町にあるといえる。

りんごの歴史がある七飯町だが、意外にもりんごの収穫の様子を写した写真が少ない。当館で所蔵している古写真を見返し、ようやく見つけたのが上の写真である。割烹着にほっかむり、腕ぬきをつけて実ったりんごを収穫している。奥の方には、竹製と思われる籠いっぱい、りんごを積んでいる。今では見られなくなった風景である。木をみると台木は使用していないのも時代を感じさせる。

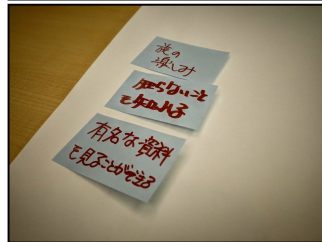
収穫面積の少ない七飯町では、昭和47年（1972年）からりんごの矮化栽培へとシフトし始める。台木に接いで、りんごの木を大きくならないよう剪定などして、小さな面積にたくさんの本数を植えるためだ。

りんごの栽培方法も変わり、収穫の様相も変化した。色づくりりんご畑は変わらず七飯町の風物詩である。もし、七飯町の収穫の様子を切り取った写真をお持ちの方は、当館へご一報いただければ嬉しいかぎりである。



## ワークショップ形式の夜の博物館

第4夜は、「地域博物館の役割」と題し、受講者を3班に分けて、講師の根本氏から出された問いの答えを付箋紙に書き、班内で発表するというもの。初対面で自分の意見を伝えることは、なかなか難しいものです。性別も年齢も異なる班内で、最初は、発表する順番を譲り合い、思うよう進まない班も、慣れてくると、まとめ役の人も現れたり、その変化を見ることができ、興味深い時間でした。質問は、「好きなテレビ番組は何ですか？」から始まり、「博物館の好きなところは？」「あなたは博物館で何ができるのでしょうか？」などと続き、最後は「地域博物館の役割は？」で各班の意見を集約し、代表者に発表してもらいました。「世代間交流の拠点」「記録場所」「子ども達の教育」他たくさんの意見が出されました。様々な意見に耳を傾け、私たち博物館職員が、いまできることは何か？。小さな町の博物館ならではの課題は、まだまだ山積です。



## 植物採集から気づくこと

昨年の6月から始めた町内の植物採集は、240種を超えました。山々や河川、湖、湿地、道端など、目線を落とし、探します。9月に採集した右上段の「ミゾソバ」は小さな可愛らしい花を付けますが、別名を「ウシノヒタイ」といい、葉の形からそう呼ばれます。また土から掘り起こすと、花びらが退化して、つぼみの形のまま花を開くことなく、内部で自家受粉をして実を結ぶ、「閉鎖花」を見ることができました。また下段の写真は「メマツヨイグサ」です。秋の採集では、咲いている花と終わりの姿に出会うことが多くあります。「果て」の姿の造形は儚さと美しさも湛え、その植物の特徴も知ることができます。



## 11月の予定

|    |             |
|----|-------------|
| 1  | 月           |
| 2  | 火           |
| 3  | 水 文化の日      |
| 4  | 木           |
| 5  | 金           |
| 6  | 土           |
| 7  | 日           |
| 8  | 月           |
| 9  | 火           |
| 10 | 水           |
| 11 | 木           |
| 12 | 金           |
| 13 | 土 ジュニア探検クラブ |
| 14 | 日           |
| 15 | 月           |
| 16 | 火           |
| 17 | 水           |
| 18 | 木           |
| 19 | 金           |
| 20 | 土 ピチャリ発行予定  |
| 21 | 日           |
| 22 | 月           |
| 23 | 火 勤労感謝の日    |
| 24 | 水           |
| 25 | 木           |
| 26 | 金           |
| 27 | 土           |
| 28 | 日           |
| 29 | 月           |
| 30 | 火           |

※11月の休館日はありません

### 旧跡と道案内

主に町外のお客様に尋ねられる旧跡の道案内。心掛けているのは、最短距離の道順だけではなく、会話を通じて必要な情報もお伝えすること。これも大切な業務のひとつです。

### 編集後記 ~tawagoto~

10月に入ってすぐ、雪虫が飛びはじめた。いつもよりも早い気がする。フワフワとした綿毛のような分泌物が雪のようだった。雪虫たちは、トドマツから飛び立ちほかの木に移動するために飛翔するが、私たちが認識するのは、たいていその時で、それ以外の生態については、余り知られていない。雪虫を確認してから20日後位には、初雪が降るといわれるが、18日には横津岳山頂が白に染まっていた。いよいよ冬が近づいている。(やまだひさし)

Pichari ~ピチャリ~

第166号

令和3年10月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp